

2023年2月28日

2022年度聖路加国際大学大学院看護学研究科
修士論文

脳神経外科病棟看護師の意識レベルの低い患者への
「気持ちよさ」をもたらすケアの体験
Experience of Nurses in the Neurosurgical Ward in Providing
"Good Feeling" Care to Patients with Low-Level Consciousness

学籍番号 21MN038

氏名 安森友香

要旨

【目的】意識レベルの低い患者に「気持ちよさ」をもたらすケアを実施した看護師の体験を記述する。

【方法】半構造化面接法による質的記述的研究である。対象者は脳神経外科病棟に勤務している臨床経験3年目以上の看護師で、脳血管障害による意識レベルの低い患者に「気持ちよさ」をもたらすケアを実施した経験がある者とし、体験の語りを逐語録とした。分析方法は内容分析である。逐語録を精読し、実施したケア、アセスメントの方法、ケアの目的、ケア時の配慮や工夫、ケアに対する患者の「気持ちよさ」の反応の捉え方、ケアの成果について事例ごとにコードを抽出し、ストーリーラインを作成した。全事例のコードを用いてカテゴリー化した。

聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した（承認番号：22-A017）。

【結果】対象者は9名で、脳神経外科病棟勤務年数の平均は8.6年であった。患者は意識レベルJCSI-2～Ⅲ-200で、言語的コミュニケーションは困難であった。看護師は、感情の表出が困難な患者に対して【患者の反応が乏しいため患者の認識を捉えづらい】と感じながらも、患者の不快感を想像し、【汚れの原因を多角的に見る】【病状悪化前の患者のこだわりを把握する】【身体的リスクを見極める】アセスメントをもとに【きれいにするケア】【温めるケア】を実施していた。ケア時の配慮では【患者に関心を向ける】ことを起点として、【痛みを与えないために表情・手足の動きを観察する】【患者の気持ちを考慮した個別的な声かけをする】【その人らしさを保つ】などが抽出された。看護師が捉えた気持ちよさの反応として【気持ちよさの表情・様子が見られる】【きれいになる】【意識レベルが向上する】などが抽出された。患者から感情の言語的表出がないために【患者の反応（表情・言葉）が捉えにくい】と感じながら【ケア以前の患者（苦痛時・不快時・普段の様子）と比較して患者の気持ちよさを捉える】ことが示されたが、【患者の気持ちよさの反応に確信がもてない】と反応の捉え方に難しさを感じていた。気持ちよさをもたらすケアの患者への成果は【患者のケアが広がった】【患者のその人らしさに近づいた】、看護師への成果は【気持ちよさをもたらすケアに満足した】【気持ちよさのケアを発見した】、チームへの成果は【チームとして患者のケアに積極的に関わった】が抽出された。

【結論】意識レベルの低い患者への気持ちよさをもたらすケアの体験は、患者のその人らしさを保ち、看護師のケアへの満足感や自信をもたらすことが明らかになり、看護への満足感や意欲低下などの臨床現場の課題を解決するきっかけになる可能性が示唆された。